

メッセージアウトライン

I 歴代誌 4 : 9 ~ 10 「ヤベツの祈り II」

前回からの続き

[10] 「御手が私とともにあり」

「主の御手」…神を信じる者の人生における神の力と隣在を表わす言葉。

→エレミヤ32 : 17、使徒11 : 21

これはまた、聖霊なる神の豊かな働きをも示す。→使徒4 : 29~31

ごく普通の人々であったイエスの弟子たちは、天に昇られたイエスが彼らに聖霊を送られた時、彼らは聖霊に満たされて大胆に福音を語りだした。→使徒2章

そして彼らは全世界に福音を宣べ伝える者となった。

ヤベツも彼の人生において、この主の御手、主なる神の力と臨在を求めたのである。私たちも、主の御手が私たちとともにあって、主が働いてくださらなければとうてい成し遂げられないような働きを祈り求めてもよいのである。

「わざわざから遠ざけて私が苦しむことのないようにしてくださいますように。」

「わざわざ」に対処する最も良い方法は、「わざわざ」と戦うことではなく、それに近づかないこと。

私たちが主に、「大いに祝福してください…」と祈り求める時、私たちはこの世の支配者であるサタンの縄張りにその領域を広げていくこととなる。

神の御手がともにあって、私たちが神のために良き働きをしていく時、邪魔や反対や圧力がかかってくるということはしばしばある。

バビロン捕囚から帰還したイスラエルの民が神殿を再建しようとした時、それは順調にいったか。→エズラ記

ネヘミヤがエルサレムの城壁を再建しようとした時、周りの異邦人たちはそれに賛成したか。→ネヘミヤ記

私たちはサタンと戦って、サタンを打ち負かすことを求めるのではなく、サタンの誘惑や試みを遠ざけて私が苦しむことがないようにしてくださいと祈ることが大切。主イエスも弟子たちに教えられた「主の祈り」の中で、「私たちが試みに会わせないで、悪からお救いください」と祈ることを教えられた。→マタイ6 : 13

それでもわざわざや試練、誘惑等とどうしても戦わなければならない時はエペソ6 : 11~18にあるように神のみことばに堅く立って、信仰と祈りをもって対処する。主イエスも荒野でサタンの誘惑に会ったときサタンと論争することなく、聖書のみことばを引用して対処された。

ヤベツはその祈りによって神から豊かな祝福をいただき、他の兄弟よりも重んじられる人物になった。

私たちもこのヤベツの祈りを自分の祈りとして、神の栄光のために豊かな祝福を願い、答えていただく者になりたい。